

	8. ハイキング章	☆ 隊長認定	1 級スカウト章
---	------------------	--------	----------

考査細目	考査方法	考査のポイント
(1) パトローリングの正しい方法と、その意味を説明する。	口述	<ul style="list-style-type: none"> ・パトローリングとは何かを理解していること。単なる観察と役割分担ではない。責任、実行能力、後輩の育成・等あるが、それはチーム(班)を単位としたゲームである。1人でなく仲間と協力することで成立するゲームである。まさに班制度を如実に表しているものであることを、指導者は理解していること。
(2) ハイキングの装備携行品一覧表を作成する。	報告書の提出	<ul style="list-style-type: none"> ・デイハイク、ナイトハイク、低山ハイク等の3つ程度のシチュエーションを想定して、それぞれについて個人装備・搬装備の一覧表を作成するよう指導する。
(3) ハイキングで観察物を3種類以上スケッチする。	実演	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチとは、単に描き写すことではない。観察力を養う、特徴を掴む、理解する等に繋げられるように。
(4) 地球にやさしい野外活動をするために、ハイキングで何ができるかを説明できる(アウトドアコード)。	口述又は記述	<ul style="list-style-type: none"> ・求めることは、アウトドアコードであり、ローインパクト、リーブ・ノー・トレスとは趣旨が異なる。しかしながら、その考えは尊重する。
(5) 道に迷ったときの対処の方法を説明できる。	口述又は記述の後実演	<ul style="list-style-type: none"> ・辿った道を引き返すことが最善の策であるが、ここではどうやって引き返すのか、そのポイントと方法について説明させる。また、行ってはならない行動についても理解していること。 ・⑤コンパスを用い、バックベアリグができる。(2級章課目3.(1)⑤)の方法にも触れさせる。
(6) ハイキングで野帳をつけ、またその野帳によって略地図を作る。 (◆1級章課目3.スカウト技能(5)計測の③と共通)	実演	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドノート(野帳)に決まった形式はない。要は調査によって必要とする内容を記録できればいい。1線式2線式はその一例である。 ・ここでは、それを元に「略地図」を作成することである。その利益地図の精度?は、それを使って目的地に行ければいいのであって、地形図のように精度は必要としていない。 ・野帳をつけさせるときは、計測データだけでなく、「情操」つまり、B-P最後のメッセージにあるように自然の造形美、神秘さ、素晴らしさにも目を向けさせたい。
(7) ハイキングに適切な服装、雨具、靴について説明できる。	口述又は記述	<ul style="list-style-type: none"> ・服装については、レイヤードシステム(重ね着で調整)を機能させるための服の種類と素材。 ・雨具については、防水性、汗や体から出る水蒸気を放出する機能、フードに視界、脱着性等。 ・靴は、適したサイズ、機能(ハイク、トレッキング、登山用の作りの違い)、蒸れ・靴ずれ等
(8) 自然環境を利用した天気の前測ができる。	口述又は記述の後実演	<ul style="list-style-type: none"> ・雲や風や湿気、視界、観天望気、動植物の行動等からの前測を根拠を含めて挙げさせる。